



TITLE:

あとがき

AUTHOR(S):

芦名, 定道

CITATION:

芦名, 定道. あとがき. ティリッヒ研究 2002, 4: [1]

ISSUE DATE:

2002-03

URL:

<https://doi.org/10.14989/57598>

RIGHT:

あとがき

『ティリッヒ研究』の第4号をお届けいたします。「ティリッヒ研究会」（「現代キリスト教思想研究会」内の研究会）では、今年度も、月一回のペースで研究会を積み重ねてきました。その成果は、『ティリッヒ研究』の第3号、第4号に掲載の諸論文が示すとおりです。また、ティリッヒ『平和の神学』の翻訳の方も、途中かなり難航しましたが、ほぼ基本的な作業が終わり、今年中には出版できるのではないかと考えています。ご期待ください。

さて、前回に引き続き、この「あとがき」では、ティリッヒ研究の最近の動向を紹介したいと思います。ティリッヒ研究において最近目につくのは、いくつかの出版社から、ティリッヒ研究のモノグラフや論文集が、いわば叢書の形で次々に出版されていることです。次の文献は、最も新しい英語圏の論文集ですが、これは、ティリッヒの研究書を何冊も出版してきた、Mercer University Press からの出版です。

Raymond F. Bulman and Frederick J. Parrella (eds.), *Religion in the New Millennium: Theology in the Spirit of Paul Tillich*, 2001

なお、この論文集は、英語圏で活躍中のティリッヒ研究者が、「経済、社会、宗教」（宗教社会主義や解放の神学に関わる）、「女性と宗教」、「宗教と芸術」、「霊性と宗教間対話」、「科学と宗教」という5つのテーマのもとで議論を展開しており、今の英語圏におけるティリッヒ研究の水準を示すものと言えます。但し、たとえば、最後の「科学と宗教」のテーマに所収の諸論文は、すでに、*Zygon. Journal of Religion & Science*, vol.36, no.2, June 2001, pp.255-356 に掲載のものの再録であり、既にそちらを読んでいた者としては、正直なところ、ややがっかりさせられます。

こうした特定の出版社からティリッヒ研究が叢書的な仕方では出版されている例は、ドイツ語圏ではさらに多く見られます。De Gruyter については、次回にまとめて扱うことにして、ここでは、Peter Lang、Lit Verlag、Kolhammerについて、最近(?)の研究書の書名を紹介しましょう。

1 . Peter Lang / Europäische Hochschulschriften

- ・ Anton Bernet-Strahm: *Die Vermittlung des Christlichen*.

Eine Theologiegeschichtliche Untersuchung zu Paul Tillichs Anfängen des Theologisierens und seiner Christologischen Auseinandersetzung mit Philosophischen Einsichten des Deutschen Idealismus. Mit Erstpublikationen dreier Früher Werke des Jungen Paul Tillich. 1982

- ・ Martin Repp: *Die Transzendierung des Theismus in der Religionsphilosophie Paul Tillichs.* 1986

- ・ Karin Schäfer: *Die Theologie des Politischen bei Paul Tillich unter besonderer*

Berücksichtigung der Zeit von 1933 bis 1945. 1988

- Wolfgang W. Müller: *Das Symbol in der dogmatischen Theologie. Eine symboltheologische Studie anhand der Theorien bei K. Rahner, P. Tillich, P. Ricoeur und J. Lacan. 1989*
- Marc Dumas: *Die theologische Deutung der Erfahrung des Nichts im deutschen Werk Paul Tillichs (1919-1930). 1993*
- Amaresh Markus Seelig: *Das Selbst als Ort der Gotteserfahrung. Ein Vergleich zwischen Carl Gustav Jung und Paul Tillich. 1995*

2 . Kohlhammer / Forum Systematik

- Michael Korthaus: *"Was uns unbedingt angeht" --- der Glaubensbegriff in der Theologie Paul Tillichs. 1999*
- Ulrike Murmann: *Freiheit und Entfrembung. Paul Tillichs Theorie der Sünde. 2000*

3 . Lit Verlag / Tillich-Studien

- Werner Schüßler: *"Was uns unbedingt angeht" Studien zur Theologie und Philosophie Paul Tillichs. 1999*
- Karin Grau: *"Healing Power" --- Ansätze zu einer Theologie der Heilung im Werk Paul Tillichs. 1999*
- Gunter Wenz: *Tillich im Kontext. Theologiegeschichtliche Perspektiven. 2000*

なお、ティリッヒに関する研究文献については、わたくしの個人ホームページ
(<http://www5.justnet.ne.jp/~sashina/index.htm>) にも随時、情報を掲載中なので、
ご覧下さい。

研究会代表
芦名 定道